

大阪から業界、日本を元気に

西日本医療品 メーカー説明会開く 総合展示会

大阪医療品卸商組合は、9月7・8日に大阪市中央区のOMMビルで開催する2011年西日本医療品総合展示会に向けたメーカー説明会を開催し、出展予定のメーカー約90社が出席した。同展示会は、組合員、メーカーによる実行委員会が発足し予算、テーマ、企画などについて昨年末から準備を進めてきた。説明会以降は出展受け付け、会場レイアウトなど具体的な準備に入る。

西日本医療品総合展示会は、組合員卸とメーカーが実行委員会をつくり、テーマや特別展示などの企画準備を進めている。今回は、石本純一副組合長が実行委員長となり、昨年の展示会終了以降から実行委員会を開催している。5月10日に大阪市中央区谷町の薬業年金会館で開催されたメーカー説明会には、出展を予定するメーカー約90社が出席した。

説明会の冒頭、大西健路組合長は、東日本大震災で被災した企業や個人にお見舞いの言葉を述べるとともに、「組合として被災地への支援物資提供を呼びかけたところ、組合員、賛助員、会員からたくさん登録をいただいた」と感謝の言葉を述べ、「現地自治体からの要請により発送となるので登録いただいた全ての物資を送付するわけではないが、これは通常の流通による製品提供が可能になって



大西組合長

石本展示会実行委員長

きていることであり、ご了承願いたい」と話した。また展示会について「今回から石本副組合長を展示会実行委員長として、数回の会議を重ね本日の説明会に至った。新たな雰囲気での展示の準備を進めていく」と紹介し、「皆様にお

員長が、「今回の展示会は44回目の開催となる。過去は(売上)100億円規模の展示会だったが平成13年には50億円規模となり、この5年間は毎年10%の売上減少が続き、昨年は30億円を割り込んだ」として展示会存続への危機感を示し、「運営法や仕組みを見直し、よりローコストしながらお客様にご満足いただける展示会にしようと考えている」と述べ、「売上型の展示会という位置付けに加え、潜在需要を掘り起こす売り方や見せ方を付加価値としてご提案したい。メーカー様には、特に営業活動の軽微な一般店様への商品訴求の場としていただきたい」として、展示会テーマについて説明した。

さらに大阪組合の展示会について、全国医療品卸商連合会、全国医療品工業会、東京医療品協会の大阪医療品組合賛助員会の役員に実態を説明し賛同を得て、4団体連名で各メーカーに協力を要請する案内状を送付したと報告。展示会の継続とさらなる進化に向け協力を要請した。

また所用で欠席の辻正照特別展示コーナーは、恒例となった新製品紹介コーナーのほか、昨年好評だったメーカー特別ブースによる製品デモンストラーションを、五感体験コーナーとして展開する。

出展申し込みは、所定の申し込み用紙で組合事務所へ6月8日まで。出展料は、1小間当たり14万円(賛助員会会員7万5000円)。

日本医療衛生新聞

発行所
株式会社 日本医療衛生新聞社
大阪市中央区高麗橋1丁目5番11号

発行人 三栖 昇
編集人 松川 俊明
電話 06(6202)5588番
FAX 06(6202)5628番
取引銀行 三菱東京UFJ銀行都島支店

PIGEON

ピジョン株式会社
東京都中央区日本橋久松町4番4号
TEL (03)3661-4200(代表)

●札幌店・仙台店・大宮店・
東京支店・名古屋支店・
大阪支店・広島店・福岡店